



2019  
10月 園だより

認定こども園 下関短期大学付属第二幼稚園  
山口県下関市彦島塩浜町2丁目2-21 ☎ 083(266)5821

## 運動会を通して

先日の夕方、園庭の草刈りをしていた私の所に、うめ組の女の子がやって来て、「ぐるぐるの花！」と土手の方を指さしました。見ると彼岸花。彦島は、たんぼがほとんどない地域なので、彼岸花を見ることはありませんでしたが、こんな身近なところに咲いていたとは、改めて本園の環境の素晴らしさを実感しました。



「ぐるぐるの花」はブランコ奥に咲いています。運動会の時にぜひご覧ください。

さて、その運動会がいよいよ間近に迫ってきました。子どもたちの練習にも熱が入っています。私にとっては初めての運動会ですので、当日の流れやPTAの方の動きをシミュレーションしづらいのですが、PTA役員さんや一人一役の方を始め、多くの保護者の方にご協力をいただかなければ成り立たないということだけはイメージできます。当日はどうぞよろしくお願いいたします。

行事を通して、子どもはひと回りもふた回りも成長します。それは、たくさんの練習や努力を重ねるからです。そして、その練習の過程において、主体性が芽生えてくるからです。

例えばさくら組の子どもたち。自分たちの演技を教師に動画で撮ってもらい、それを見ながら、どこがよくなっているか、あるいは、どこがまだおかしいかをみんなで見つけ、自分たちの共通の課題として次の練習のめあてとしてしていました。教師から指摘されて行動するだけでなく、自分たちで課題を見つめ、自分たちでめあてを考え、話し合っただけでなく、明日の練習でやってみる、これはまさに本園のチャレンジ目標「考える、決める、やってみる！」を年長さんは見事に実践していると思いませんか。

もも組。かけっこの練習の際、一等賞を獲る気満々だった子が、惜しくも獲れなくて、悔しさのあまり号泣していたとき、その子のそばに行き、やさしく慰めている子がいました。幼児期は、自己中心性の真っ只中で生活しているのが通常です。その子は泣いている友達を見て、何もしないではおれなかったのでしょうか。

うめ組。総練習の最中、次の出番に備えて入場門に集まることになっていたのが、一人バツタを見つけて入場門とは逆の方向に向かっています。その時、教師が気付く前に、ある子がさりげなく「バツタの子」に近づいていき、ひと声かけたかどうかは分かりませんが、促しています。道を外れた友達を見たとき、多くの子どもは教師に伝えに行きますが、この子は、自分なりに解決しようと決めて実践したのです。年少さんも頼もしさを感じます。

たんぼぼ、つぼみ組。この子どもたちにとって運動会は試練の場です。裸足で地面を踏む、蹴る、合図に合わせてできるだけ速く走る、いきなりコーナーを曲がるという一連の運動は、未満児にとっては大変高度な技術なのです。足の裏の刺激が強すぎて集中できなかつたり、曲がらなければいけないことに気を取られて、いつものスピードが出せなかつたり、すごく大回りになったりしながらも、担任の待つゴールを目ざして一生懸命に頑張る姿に心を打たれます。

子どもたちはこれまで幾多の努力を重ねてきました。そして、どの子もたくましくなっています。もはやかわいいだけではありません。ご自分のお子様はもちろんのこと、すべての子どもたちにぜひとも温かい声援を送ってください。

これから運動会本番に向けて、大きなけがや病気に気を付けて、万全の体調で当日を迎えてほしいと願うばかりです。

(園長 寺本 明生)